

国民大運動行動報告

第044号
2020年
6月12日

「軍事費を削って、くらしと福祉・教育の充実を」
国民大運動実行委員会
〒113-8462 文京区湯島2-4-4 全労連会館内
Tel 03-5842-5611 Fax 03-5842-5620

～ 第201通常国会 国民大運動・安保破棄中実委・中央社保協主催 6・10 定例国会行動～

国会閉めるな！ 審議を尽くせ！



写真左端 衆議院第2議員会館前にて、主催者を代表してあいさつをおこなう全労連の小田川義和議長

第201通常国会最後となる三者共催定例国会行動は、6月10日、全日本民医連・宮澤洋子常駐理事の司会のもと、110人が参加しておこなわれました。8日に第2次補正予算が提出され9日より衆議院予算委員会で審議がおこなわれていますが、集まった参加者は持続化給付金の業務委託疑惑や10兆円もの予備費など不透明なままにさせる訳にはいかないと閉会を許さず徹底審議を求めました。

主催者挨拶をおこなった全労連の小田川義和議長(国民大運動代表世話人)は、「コロナ危機のもとで市民のいのちと健康を守り、雇用と生業、くらしを守るためにも国会の会期を延長し、第3次補正予算も含めた徹底審議を、国会はその役割を果たせ、と迫ろう」と訴えました。検察庁法改定案へのツイッター抗議が広がり政治を動かしたことを教訓として「声をあげれば政治は変えられる。行動をおこすときは、今だ」と強調し、「当面する最大の政治戦」として都知事選へのたたかいをよびかけました。

日本共産党の井上哲士参議院議員は、冒頭、7日におこなわれた沖縄県議選への御礼と与党が過半数を維持した結果を報告。第2次補正予算については「国民の声や野党共同提案を盛り込ませることができたが、10兆円もの予備費について、あの戦争へ突入していった時代の教訓である財政民主主義を踏みにじるものであり、共産党は反対した」と述べ、「国民の声にこたえよ、国会は閉じるな、の声を一緒にあげていこう」とよびかけました。



参加団体を代表して、2名が決意表明をおこないました。

埼玉生活と健康を守る会連合会の笹井敏子会長は、「生活保護費が削減され続け受給者は苦しい生活を強いられている。世論と運動により10万円の特別定額給付金は収入認定しないとさせたにもかかわらず、受給者に送られてきた申請書には『収入申告書』が同封されており、さいたま市へ抗議した」と報告。「生活を守り、暮らしやすい世の中にするために頑張る」と決意を述べました。



日本医労連の鎌倉幸孝副執行委員長は、「感染が拡大し『医療崩壊』が危惧されている背景には、これまでの効率優先の医療・社会保障政策がある」と指摘。「感染防止対策の徹底と医療提供体制の確保が重要だ」とし、「国に対して医療経営の減収分の補てんを求め、公立・公的病院の再編統合を中止させ、国民のいのちと健康、生活を脅かす医療費抑制政策を大転換させるために奮闘する」と述べました。



行動提起をおこなった国民大運動の渡辺正道事務局長は、「この間、国会議員団と連携し、一律10万円の給付金をはじめ、不十分ながらもいくつもの要求を予算のなかに還元させてきた」と報告。「引き続き、医療体制の拡充、暮らしと雇用、営業を守るコロナ対策を求めていく」とし、「その財源として消費税減税、軍事費削減を求める世論と運動は重要だ」と強調。「国会が閉会になっても、コロナ対策をつよく求めていこう」とよびかけました。

おしまいに、全商連の天野晶さんのコールにより、「雇用と営業、暮らしに予算をまわせ！」などと、参加者はマスクを通して、国会に向かって声をあげました。

